

普及活動の成果

様式6(左)

課 題 名	畜産クラスターを核とした収益力の向上	振 興 局 名	県北振興局
活 動 対 象	肉用牛繁殖農家、肉用牛肥育農家、養豚農家	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

【対象の概要】

- 1 黒毛和種繁殖雌牛飼養戸数は850戸、飼養頭数は8,651頭(H30.4.1現在)で、16地区の各和牛部会に分かれて活動している。
- 2 黒毛和種肥育牛飼養戸数は30戸、飼養頭数は3,570頭(H30.4.1現在)で、素牛価格の高騰、資材費の高止まりにより、生産コストの低減が課題となっている。
- 3 養豚農家戸数は4戸、母豚頭数は580頭(H30.4.1現在)となっている。

【課題設定の背景】

- 1 本地域では近年中規模肉用牛繁殖農家の規模拡大が進んでいる。一方、小規模高齢農家(繁殖経営において、飼養頭数で74%、戸数で33%を占める)の離農により、平成23年時の9,400頭から5年間で12%減少し、産地の規模縮小が進行している。全国的にも同様の傾向があり、多数を占める小規模高齢者の離農により、母牛頭数は減少しており、子牛価格の一層の高騰につながっている。そのような中、国は、関係事業者が連携・結集し地域ぐるみで収益性を向上させる、高収益型畜産体制(畜産クラスター)の構築を推進している。本地域でも、「ながさき県北畜産クラスター協議会」が発足し、家畜飼養施設の整備、効率的な飼料生産のための機械整備とともに、イネWCSや地域内粗飼料流通など効率的な飼料確保により収益向上を図る動きが見られる。
- 2 また、管内養豚経営においては、収益性向上を図るため、多産系の母豚への更新が進んでおり、畜産クラスターの取組による衛生管理施設や環境施設の整備が検討されている。

【活動目標】

- 1 規模拡大意向のある農家に対する補助事業、資金計画の作成を支援する。労力補完を目的としたキャトルセンター整備を支援する。
- 2 ICT機器を活用した繁殖管理実証試験の実施による、管内農家の繁殖成績の向上を図る。
- 3 長崎型新肥育技術の普及による収益性の向上を図る。
- 4 養豚クラスター協議会の設立支援、及びベンチマーキングの推進や環境対策への支援を行う。

【関係機関との連携(活動体制・役割分担)】

- 1 「ながさき県北畜産クラスター協議会」を中心に、補助事業については、市町、JA畜産部と連携し、生産性向上に関する現地指導については、家畜保健衛生所、JA営農経済センターと連携して取り組んだ。

【活動経過】

- 1 平成30年度畜産クラスター事業実施農家の、事業計画書作成支援、年度内竣工に向けた進捗管理等を行うとともに、平成31年度事業要望農家4戸の計画書作成支援を行った。また、規模拡大意向肉用牛農家8戸(クラスター牛舎事業活用農家4戸)について、素牛導入経費、飼料購入費に係る、資金借入計画作成支援を行った。
茎葉型飼料イネの作付推進を図るため、肉用牛農家4戸(平戸2、佐世保2)の協力のもと、展示圃の設置及び収量調査を実施した。
- 2 畜産クラスター事業のソフトメニューを活用し、鷹島町の肉用牛農家の協力のもと、ICT機器を用いた繁殖管理実証試験を実施し、発情発見装置及び電子繁殖台帳の有用性の確認を行った。家畜保健所、JA、家畜診療所と、管内肉用牛農家の巡回指導体制について検討を行い、重点指導農家8戸を選定し、定期的な、繁殖成績の調査、飼養管理指導を実施した。

- 3 長崎型新肥育技術(前期粗飼料多給技術)に取り組んでいる4戸について、農協、家畜保健所、振興局による巡回指導を実施し、発育調査、給与量確認を行った。また、調査牛の枝肉成績及び年間の出荷成績の取りまとめを行い、成績の検証を行った。
- 4 養豚クラスター協議会設立に向けて、関係機関との協議を行った。また、平戸市の1農家に対し、ベンチマーキングに関する経営改善や飼養管理技術の向上などの情報提供を行った。

【普及活動の成果】

- 1 繁殖牛舎4棟(159頭増頭規模:平戸2、松浦1、小値賀1)及びJA第2キャトルセンター(育成牛300頭規模)を整備できた。また、平成29年度に牛舎竣工済みの10農家について、繁殖雌牛(71頭)の導入を支援できた。また、平成31年度事業要望農家4戸について、来年度申請に向けた計画書の作成ができた。また、規模拡大意向4農家について、公庫資金借入の承認が得られ、増頭に向けた支援をできた。
飼料イネ展示圃は、少雨の影響もあり、やや生育不良となった展示圃もあったが、概ね生育、収量ともに良好であった。
- 2 ICT機器の設置により、夜間の発情見逃しを低減でき、空胎期間の短縮に繋げることができた。(空胎期間 H29:64日→H30:58日)また、電子繁殖台帳を使用することで、発情回帰日、妊娠鑑定日等を手元で確認できるようになり、飼養管理の精度向上に繋がった。
重点指導農家8戸について、定期的な巡回指導により、飼養管理を改善でき、空胎期間を短縮することができた。(空胎期間 H29:107.1日→H30:65.0日)
- 3 長崎型新肥育技術に取り組む3戸について、枝肉成績の向上が見られ、技術の有用性を確認することができた。
(A 農家 H29枝重458.1kg 上物率71% H30枝重463.9kg 上物率82%)
(B 農家 H29枝重461.4kg 上物率57% H30枝重496.2kg 上物率76%)
(C 農家 H29枝重461.8kg 上物率56% H30枝重483.3kg 上物率65%)
- 4 養豚クラスター協議会の設立については、養豚農家から規模拡大延期の申し出があったため、来年度以降の設立に向けて調整を行うことになった。

【対象の声】

- 1 生産コストを削減したいため、自家配合の方法について教えて欲しい。
- 2 長崎型新肥育技術を取り入れることで、枝肉成績が向上した。更なる成績向上に向けて、取り組んでいきたい。

【今後の課題】

- 1 今年度竣工の4棟について、増頭計画に沿った進捗管理を継続する。また、資金借入終了農家については、資金借入計画に基づく進捗について、関係機関による巡回等の支援を計画する。
飼料イネ展示圃より得られた調査結果を部会等へ周知し、荃葉型品種の作付推進を図る。
- 2 ICT機器展示圃で得られた情報について、取りまとめを行い、部会総会等での周知を行う。
また、重点指導農家8戸のうち巡回指導により関係機関で協議を行い、改善が図られた農家については入れ替えを行い、関係機関連携した指導を継続する。
- 3 今年度新たに長崎型新肥育技術を取り入れた1戸について、引き続き発育調査や給与量の確認等による指導を実施する。
- 4 養豚クラスター協議会設立に向け、事務局の選定等について関係機関との協議が必要である。
また、平戸市1農家に対し、引き続きベンチマーキングに関する情報提供を行う。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

なし

【発表・参考資料】

なし